

まえがき

「人」という生き物には世の中に素晴らしいものを生み出す力が宿っていると私は感じています。そんな思いを持ち続けながら長年教師（教育者）として「子ども」に関わってきました。

そんな時、私の仕事（教師・教育者）とは一体何なんだろうと、ふと考える時がありました。

そして改めて、それは「『子ども』という不完全なものを、『人』という完全なものに近づけていくことがその仕事なのかも知れない」と考えたのです。

この三十七年間数多くの失敗や、時には間違った指導をしたことも今となつては大きな反省材料です。しかし、そんなことがあつてこそ、今の私があると素直に感じています。

今までこの仕事をしてきて、毎日勤務するのが耐えられないと思う時もあるれば、この仕事をしていないと味わえないような素晴らしい感動を体験したこともありました。

今、そんな私が心配することは、これからの「子どもの教育」が今後どこを向いて進んでいくのだろうかということです。

これは、私のような者が語ることはありませんが、今のままで進んでいけばそれは決して順風満帆とはいかないように感じています。

この本を出版しようとい念発起したきっかけは、あつかましくもそんなこれからの「子ども」の教育に関わっていく皆さんに、私の経験や考えが何か一つでもその指導のきっかけやヒントになれば幸いだと思い、このような形でまとめることにしました。

今一つの理由としては、私自身の教師人生の集大成として何か残しておきたいと思ったこともありました。

いづれにしても、ようやくここに一冊の本にまとまりました。ただし、文章は私自身が一人で書き上げたものです。その表現の仕方や文章の構成、言葉の使い方等は全くの素人作業です。読んでいただいて、意味不明で時には不快な思いをされる方もあるかも知れませんが、どうか寛容な気持ちで最後まで読んでいただければ幸いです。

また、私の職業としての「教師」という言葉はあえて使わず、「子ども」を育てる多くの関係者の皆様に出来るだけ幅広く読んでいただきたいと思い、あえて「教育者」という言葉を使用しました。

また、「子ども」「人」「教育者」といった強調したい言葉はあえて括弧書きをしています。

この本が、少しでも多くの皆様の目に止まり、読んでいただくことで一人でも多くの「子ども」が「人」へと成長してくれることを心から願っています。